令和８年神奈川県議会第１回定例会　安全安心・未来環境特別委員会

令和８年３月 10 日

◆佐々木正行委員
　私のほうからは、リニア中央新幹線の工事現場を活用した文化芸術によるにぎわいの創出についてということで、地元ですので、違う角度から質問させていただきたいと思いますけれど、まず、今年度開催したイベントでは、ステージを設置して音楽とかダンスをやったということでありますけれども、どういった方々に出演を頂いたのか、また、地元の方々の出演はあったのか、まずそこを伺います。

◎マグカル担当課長
　今年度開催したイベントの出演者についてでございますが、昨年度まで日本大通りで開催していたマグカル解放区に出演した経験のあるアーティスト等を中心に依頼を行いまして、そのほかにアイドルグループですとかお笑い芸人、シンガーソングライターの方などに出演いただいております。また、地元で活動する団体等にも積極的に声かけを行いまして、具体的には、音楽関係では、県立相模原弥栄高校の吹奏楽部、相模原出身の若手アーティストの小林柊矢さん、ダンスパフォーマンスでは、地元を中心に活動するグループのｃｏｒｉｎｇｏ☆ｓｔｙｌｅ、さらには相模原のよさこいグループの相模ＲＡＮＢＵ〇といった方々にパフォーマンスを披露していただいております。

◆佐々木正行委員
　先月開催したミラノ・コルティナ五輪でも、スノボで金メダルを取った戸塚優斗選手ですとか、それからパリのときはスケボーで金メダルを取った吉沢恋選手とか、あとボクシングの中谷選手とか、そういう超、世界で活躍する方々もいらっしゃるわけで、地元のそういうパフォーマンスチームももちろん大事なんですけれども、相模原市と連携を取っているとは思いますけれども、そういうところも市長もいつもシティセールスでいろいろ呼んでいるもんで、そういう方々をお呼びすると、もっとそのイベントが一層盛り上がるんじゃないかというふうに思いますが、その辺の連携とか、考えていることがあったらぜひ教えてください。

◎マグカル担当課長
　委員おっしゃるとおり、例えば、スポーツ選手などの著名な方に御参加いただければ、イベントの注目度も高まりまして、それでお会いできることを楽しみに来場する方も増えると思いますので、効果的な取組だと考えております。そこで、県としても、昨年６月に開催したイベントでは、地元のラグビーチーム、三菱重工相模原ダイナボアーズの選手やマスコットに出演いただいてトークショーを開催したほか、ＰＲブースの出展もしていただきました。今後も地元、相模原市、ＪＲ東海の協力も頂きながら、イベントを盛り上げるゲストの参加を検討していきたいと考えております。

◆佐々木正行委員
　また、将来リニア駅になるこの工事現場というのは、非常に注目されているところでもありますし、そこができちゃったらもう二度と見られないということになるので、そういう意味では今だからこそ価値があるというふうに捉えられると思うんですね。その来場者の方々にリニアの期待を膨らませるような、そういう取組が必要だと思うんですけれども、例えば今、リニアの新幹線の実験線の中に乗るというのをやっていましたけれども、今もやっているところも一応あるのかもしれませんが、なかなか予約が取れないとかそういうこともあるので、ＶＲで、最新のテクノロジーで技術を生かして、デジタル技術でそういうことを現場で体験できるような、そういう臨場感のある映像なんかを通してやるということなんかも、ぜひ考えていただきたいなというふうに思っていますけれども、そうしたデジタル技術、プロジェクションマッピングとかああいうのをやっているのは知っていますけれども、そういう技術的なそういうところなんかももっと駆使して、ＪＲ東海なんかはやってくれるんじゃないかと思うんですよね、７兆円規模のリニアなんで、その辺はどういうふうな仕組みをしているのか、この具体的なお話があれば伺いたいと思います。

◎マグカル担当課長
　令和６年度からイベントを開催しておりますが、これまでのイベントを通じまして、リニア中央新幹線神奈川県駅開業への期待の高まり、我々も実感しているところでございます。こうしたリニアへの期待感をより高めるため、委員から御提案いただきましたとおり、ＶＲの活用、私も有効的なものだと思っております。
　ちょっとＶＲとは違うんですけれども、昨年度からイベントの共催者であるＪＲ東海が、現実の景色にデジタル情報を重ね合わせて投影する拡張現実のＡＲを活用した取組を行っております。具体的には、来場者が自身のスマートフォンで二次元コードを読み取ることで、駅にリニア中央新幹線が到着する様子や、トンネルを掘るための大きなドリル、これはシールドマシンという名前ですけれども、それが回転する様子などをスマートフォン上で楽しめるコーナーを設置し、神奈川県駅の開業に向けたイメージを膨らませてもらう取組も行っております。
　ＶＲの活用についても、今後ＪＲ東海と相談しながら、実現できればぜひやってみたいなと思います。

◆佐々木正行委員
　一つ、また違う角度でお話ししますけれども、リニア神奈川新駅、仮称ですけれども、相模原の橋本地域なんですよね。駅のそばなんですが、今、さがみロボット産業特区も盛んに、相模原市も少しやるようになりました。宇宙サミットもこの間やったし、そういう意味では、相模原市域はＪＡＸＡもあれば、10 億個の星が見える今のところ世界一の８Ｋのそういうプラネタリウムもあるんですよね、そういうことを鑑みますと、宇宙関連の取組もぜひ産業労働局と一緒に、

ロボット産業特区なので、取組をしていただきたいんですけれども、実はリニアは、御存じかもしれませんけれども、東京、大阪間、スーパー・メガリージョン構想というのがあって、約 8,200 万人の経済圏で、ニューヨークよりでかいと言われていて、世界一と言われているんですよね。そういう東京、大阪間を約１時間で結んでしまうような、将来、駅が 34 年にはできると。10 年ぐらいたっちゃうと思いますけれども、その中で、未来志向でそういう取組、連携していくということを考えるともっと夢が膨らむと思うんですけれども、その辺はどうでしょうか。

◎マグカル担当課長
　昨年 10 月のイベントでは、相模原市、そしてさがみはらロボットビジネス協議会に御協力いただきまして、ロボット体験ブースを設置いたしました。体験ブースでは、四足歩行のロボットがスムーズに歩き回るデモンストレーションなどを行いまして、多くの来場者が足を止めて、ふだんはなかなか目にすることのできないロボットを見たり触れたりして楽しんでいただくことができました。
　今後も、御提案いただいたような新たな産業分野ともしっかりと連携した取組ができるよう調整してまいりたいと思います。

◆佐々木正行委員
　この４月に、桜まつりといって相当大きなイベントを相模原市でも行って、相模原市役所の周辺なんですけれどもね。そこで、地元の例えば、建設業協会の方々なんかはいつもユンボを持ってきて、実際にこのユンボに子供を乗らせる体験型のイベントをやっているんですよ。もうずっと始まってから終わりまで並んじゃって、ずっとそこで写真撮って、何人も、何百人以上でしょうかね、やっているんですけれども、そういうことを考えると、リニア現場でもそういうような工事用の様々な車両やそういう機械みたいなものに触れさせたり、そこの前で写真を撮るとか、かなり大きな、さっきクレーンの話もありましたけれども、そういう意味では、産業系のそういうものをしっかりとイベントや交流の中で活用するべきなんじゃないかなと、こういうふうに思っていますけれども、それに対しての実施をするかどうかの判断というか、方向性をちょっとお聞きします。

◎マグカル担当課長
　このイベントは多くの子供たちも参加されていますので、そういった重機等にも関心が高いお子さんがたくさんいらっしゃると思います。そこで、10 月のイベントでは、ブース出展していただいた企業、工事に関わっていただいている企業様による大型重機の展示というものは行いました。また、高所作業車の乗降体験も予定していたんですけれども、乗降体験についてはあいにく天候不良により残念ながら中止となりました。
　こうした体験コーナーの設置運営を工事現場内で行うに当たっては、安全管理の徹底が求められますが、実際に体験することできれば、子供たちの学びですとか、あるいはリニア中央新幹線開通への機運醸成にもつながると思いますの

で、来年度以降もＪＲ東海を通じて企業に協力を求めていきたいと考えています。

◆佐々木正行委員
　大手のゼネコン３社が入っていると思いますけれども、そういうところも多分協力してくれるはずだと思うんですね。プロジェクションマッピングをやったときも協力してくれましたから、そういう意味では、工事現場を見ていただくということも、地元の建設業協会とも一緒になって、全然、ジョイントベンチャーに入っていなかったとしても連携は取れると思うんで、そういう意味でも工事現場を見ていただくことは地元の理解も深まるというふうに思いますので、そういうイベントを通じて取組を行っていただきたいというふうに思いますけれども、その辺はどうでしょう。

◎マグカル担当課長
　今年度のイベントでは、ＪＲ東海の工事担当者が現場の様子を見ながら工事の仕組みや進捗を解説するエリアを設けまして、集まった来場者は、眼下に広がる広大なリニア駅の工事現場をのぞいたり、ときには担当者に興味深そうな質問をしながら説明を聞いていたところでございます。また、ＪＲ東海や施工を担う、委員おっしゃったＪＶ各社にはブース出展していただきまして、ブース内では将来リニア駅の実際の工事に使ってもらえる小さな部品、スペーサーというものがあるんですけれども、そのスペーサーにイラストですとかメッセージを記入できるコーナーや、リニア中央新幹線の開発に至るまでの、高速鉄道の歴史を知ることのできる展示コーナーなどを設けるなど、工事の理解促進も図っているところでございます。

◆佐々木正行委員
　いずれにしても、地元の期待も大きいですし、機運の醸成をしていくためにも、地元の方々の協力というのは一番大事だなと思いますので、そういう意味では相模原市と連携は取っていただいていると思いますし、また地元の市長さんも物すごく期待をしていますし、なかなか市だけじゃできないものを県でやったと、宇宙サミットなんかも、それは、イベントはこっち側でやりましたけれども、非常に期待しているところもありますので、よく連携を取っていただいて、どのように進めていくかという方向性もしっかりと探りながら進めていただきたいと思いますが、その辺はどうでしょうか。

◎マグカル担当課長
　リニア工事現場を活用したイベントに地域の方々に参加いただくことは、リニア開業に向けた機運の醸成や工事に対する理解促進に加えまして、市の魅力発進にもつながるものと考えています。そこで、今年度開催したイベントには、先ほど答弁しましたステージプログラムに、地元の団体、学生に出演いただいたほか、相模原市には市のＰＲブースを、また、さがみはらロボットビジネス協議会にはロボット展示体験ブースを、さらには橋本七夕まつり実行委員会にも御

協力いただきまして、願い事の短冊づくりのブース、こういったものも出展いただきました。こうした団体のほかにも、例えば、伝統芸能団体ですとか、相模原市内には魅力的な取組を行う団体が多数あると思っておりますので、今後もより幅広い地域の団体の協力を得ながらイベントを開催していきたいと思っております。

県では、引き続き相模原市や地域の団体の方々と連携して、リニア開業に向けた機運醸成や地域のにぎわいづくりにしっかりと取り組んでまいります。

◆佐々木正行委員

ぜひ、地元住民がリニアに期待と理解を共有できるように、よく連携を取りながら進めていただきたいなというふうに思います。

次に、相模総合補給廠等の米軍基地の状況についてお話ししますが、私が住んでいるところのすぐ線路を挟んで反対側が、相模総合補給廠なんですけれども、今ちょうど中東での米軍の動き等もあって、そういう意味での不安が地域の方々にもあるということで、２月 28 日に米軍がイランで軍事行動を起こしたわけなんですが、県内の米軍基地に関する情報というのは何かあるのか、それについて最初にお聞きします。

◎基地対策課長

報道による情報となりますが、幾つかございます。

まず、在日米軍基地の部隊防護体制のレベルが、アルファというものからブラボーというものに引き上げられたというふうに承知しております。こちらは、脅威等が全くない状態のノーマルを除きますと、警備レベルの高い順に、デルタ、チャーリー、ブラボー、アルファと全４段階となっておりますけれども、今回の変更で、警備レベルが高いほうから３番目になったものと承知しております。

また、警察庁が全国警察に対し、状況に応じて警察官の配置の増強やパトロールの強化を行うよう求めているということも承知しております。さらに、横須賀を拠点とする第７艦隊所属の艦船２隻が、中東地域に派遣されているとの情報もございます。また、横須賀基地の基地開放イベントが残念ながら中止になったという影響も生じていると承知しております。

引き続き、我々は情報収集に努めるとともに、南関東防衛局のほうに対して、米軍のイランでの軍事行動に伴う県内米軍基地の状況について、新たな情報を得た場合には情報提供を行うよう求めていきたいと考えております。

◆佐々木正行委員

情報を得るのは大事なんですけれども、地元の住民の方々が不安になっちゃっているということが一番やっぱり大きいなと思っているんですが、基地対策の側面からそういう方々にどのように対応していくべきだと考えているのかお答えください。

◎基地対策課長

住民の方々の安全・安心のためには、基地の状況についてできる限りの情報

を国の責任で明らかにすべきであるというふうに考えております。そこで、我々は基地関係県市連絡協議会を通じまして、基地問題に関する情報については国として積極的に公表し、説明責任を果たすこと等を求めているところでございます。
　また、前例のない訓練の実施など、従来と異なる基地の使用が行われる場合には、国として関係自治体に対して適時適切な情報提供を行い、基地周辺住民の方々に十分に配慮することについても求めているところです。
　引き続き、状況を注視するとともに、この状況に応じまして、国に対して必要な働きかけを行っていきたいと考えております。

◆佐々木正行委員
　この資料だと、相模総合補給廠は第 38 防空砲兵旅団司令部が置かれているということもあるんですけれども、今、県はこの相模総合補給廠の使われ方について、どのような認識で動いているのか、簡潔にお願いします。

◎基地対策課長
　こちら相模総合補給廠につきましては、米陸軍の補給基地となっておりまして、倉庫群等がございます。また、第 38 防空砲兵旅団の司令部がございます。この第 38 防空砲兵旅団司令部について絞って御説明しますと、こちら平成 30 年 10 月より駐留しておりまして、部隊等に対する指揮統制及び調整を行うものという説明を国のほうから得ております。それで、レーダー通信所であるとか、ＰＡＣ－３やＴＨＡＡＤ部隊等という全国またグアム等に展開している部隊の指揮命令を行っているというふうに承知しております。

◆佐々木正行委員
　平成 27 年のときに、ちょうど私が所属している委員会で海外視察をするその朝というか夜中に、夜中の１時前ぐらいですね、ガスボンベが爆発して、相当大きな災害、ボンベの爆発だったんですよ、何回も花火のような音がドンドンして、みんな地域住民はテロが始まったかと思っちゃった、そういうことが実はあったんですね、それは火災で医療用のボンベが爆発したという話だったんですけれども、本当に近くの人たちはみんな戦々恐々としちゃっていたわけなんですが、この事案について、再発防止策というのは講じられたのか、そこについて。

◎基地対策課長
　この火災等を受けまして、平成 27 年 11 月に、原因究明や再発防止に必要な対策を策定するため、米側による調査が行われまして、平成 28 年 11 月に国から最終報告が示されています。その最終報告によりますと、火災事故の原因につきましては、倉庫内に保管されていた酸素ボンベの欠陥または機能保全によって生じたものと推定されておるところです。それを受けて、再発防止策としまして、消火設備の点検、物品管理室の共有の徹底、夜間連絡体制の整備、定期点検の実施、酸素ボンベ保管量の縮減を徹底するといった方策が講じられたと承知しております。

◆佐々木正行委員
　そのボンベについては報じられたと思うんですけれども、なかなか中が見られなかったですよね。基地対策課が行っても見せてもらえないんじゃないかと思うんですけれども、たまたま相模原市の消防というのが、ふだんから米軍の消防と連携を取っているんで、真っ先に入ったようですけれども、なかなか手が出せなかったということで、何があるか分からないから、そのほかの物質とか、基地の中にいろいろなものが管理されていると思うんですが、そういう状況によって同じようなことが起こるんじゃないかという不安もあるんですけれども、その辺の可能性はないのかどうか、掌握しているのか、そこのところを教えてください。

◎基地対策課長
　我々も相模総合補給廠の中に保管されている物品が、分からなかったということが今回の課題の一つであるというふうに考えております。その点については現時点でも解決はしておりませんので、我々としましては、基地と地元など日米関係機関で、基地における保管物資の安全に関する情報を共有するとともに、火災等の事故発生時には緊急対応や原因調査に必要な自治体職員等の基地立入りの実現を図ることといったことについて、国に求めているところでございます。

◆佐々木正行委員
　一部、214 ヘクタールのうち 17 ヘクタールが返還になって、そのうちの２ヘクタールは道路が造られたんですけれども、15 ヘクタールが開発をこれからしようとして、市長は新しい打ち出しをしているんですけれども、そういうことが起こっちゃうと、開発で大きなまちづくりをこれからしようとしていくのに不安になってしまっちゃうんですよね。なので、まず、その相模原市の跡地利用を検討しているというのは知っているとは思うんですが、現状どのような認識を持っているか教えてください。

◎基地対策課長
　現在、その 15 ヘクタールの部分ですけれども、国有地として財務省が管理しておりまして、相模原市が跡地利用に向けた検討を進めていると承知しております。こちら相模原市のほうは、令和７年８月に相模原駅北口地区の土地利用計画を策定しておりまして、その計画の中では、まちづくりの基本方針としまして、駅前にオフィスビルを配置するなど業務系の用途に重点を置いた土地利用を図ることとなっております。

◆佐々木正行委員
　最後に、この基地周辺の住民の方々の負担軽減に向けて、この補給廠をはじめとして、県内のそういう地域についてどのように取り組んでいこうとしているのか、最後に担当局長にお伺いいたします。

◎基地対策担当局長兼基地対策部長
　基地負担の軽減は様々なやり方があるんですけれども、まず一つは、地元市が望む基地の返還を着実に進めていくこと、そして跡地利用を進めていくことだと思います。相模原市には、今日、質疑を頂きました相模補給廠の 15 ヘクタールのほかにも、返還４事案といたしまして、相模総合補給廠で言えば、横浜線の沿線の土地の返還等を求めておりますので、こうしたものを強力に県としても後押しをして進めていきたいと考えております。
　また、基地の返還、そして跡地利用の実現までには大変時間がかかるというのも事実でございます。そうした中で、基地が存在している状況で負担軽減を進めていくということも大変重要でございまして、実際に騒音などの障害を及ぼしていかないということも重要でございますが、今日、御指摘を頂きました基地の中に何があるのか分からない、そして何かあったときに基地の周辺にどういう影響があるのか分からない、部隊がどんな活動をしているのか分からない、そうした情報提供というものも非常に重要であるというふうに考えております。現在、我が国の周辺の安全保障環境は大変厳しくなっておりまして、安全保障に関する情報を全て提供することは、これはできないと思いますけれども、少なくとも住民の負担、不安に応える、そして基地の周辺に影響及ぼす可能性がある事項については、的確そして迅速に情報提供いただけるように、今後も国に対して強力に働きかけてまいります。

◆佐々木正行委員
　終わりです。